



竣工奉祝祭で岡山楽所により奉納された舞楽「蘭陵王」。蘭陵王の優しげな美貌を獍猛な仮面に隠して戦に挑んだ勇士を歌ったのが曲の由来。

【竣工奉祝祭】
 平成二十一年十月十七日、岡山県神社庁から献幣使の参向を仰ぎ、吉備津神社宮司、早島町長を始め氏子内外からの来賓、総代参列のもと秋季大祭に併せ社殿竣工奉祝祭を執行した。祭典では、供膳三十台と神社本庁からの幣帛料が本殿に供えられ、宮司及び献幣使がそれぞれ祝詞を奏上し、社殿の竣工をご祭神に奉告した。



【岡山楽所】 午後からは奉納行事が執り行われた。岡山楽所は県内の神職、雅楽愛好家により昭和55年結成された。越天楽の合奏と五常楽に合わせて2人舞が奉納された。



【奉祝式典】 竣工奉祝祭終了後、殿内において総代、来賓、氏子参列のもと「社殿竣工奉祝式典」が行われた。社殿建設委員長式辞、宮司挨拶、施工者に感謝状を贈呈し、岡山県神社庁庁長、早島町町長が祝辞を述べた。



【“KIZUNA” 木村流大正琴】
 アンプを使った迫力サウンドが魅力の“KIZUNA”は昭和63年に木村流大正琴岡山支部の講師6名で結成。懐かしのメロディーを披露した。



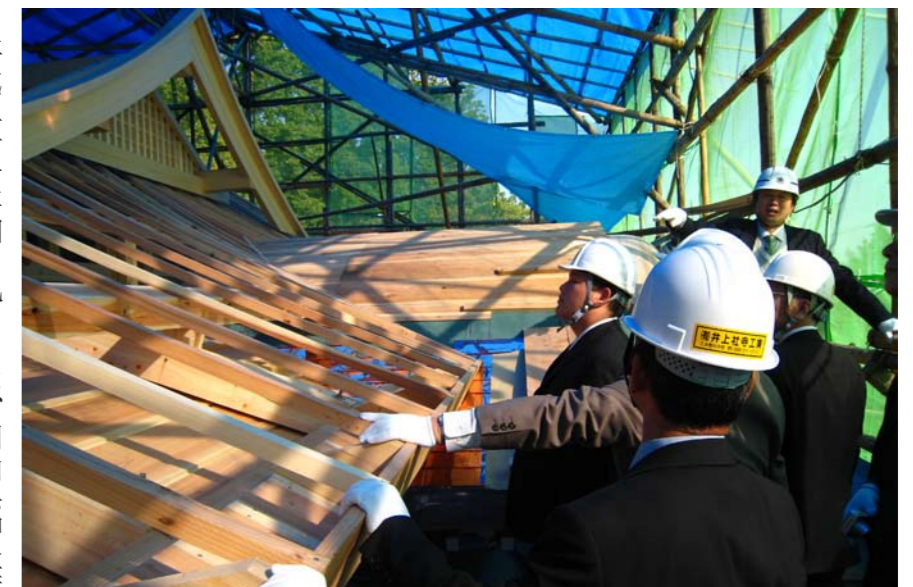
【倉敷アカデミーアンサンブル】
 チェロ奏者「江島直之」氏とピアノ奏者「中島尚子」氏が独奏と合奏を行った。曲目は、無伴奏チェロ組曲・Travel Back Time など。

◆ 槌打の儀
 (槌打役、屋上所定の位置に進む 振幣役は屋上に向かい、幣を左右左と振りながら「千歳棟」と唱えて、幣を左方高く上げる 屋上の槌打役はその声に応じて「オー」と答え、棟木を打つこと一度 次に「万歳棟」と唱えて同じ所作を行う、次に「永永棟」唱えて同じ所作を行う)
◆ 萬歳三唱
 (社殿建設委員長が先導し、全員で行う。)
◆ 幣串二本、天の弓矢、地の弓矢を棟に設置(工匠)
◆ 散餅・散銭の儀
 (散餅・散銭役、屋上北東、南東、南西、北西、中央にて散餅・散銭を行う。工匠五名、総代五名で投げられた餅を各所で受け取る。)
 一、斎王玉串を奉りて拝礼
 (祭員自座列拜)
 一、社殿建設委員長玉串を奉りて拝礼
 (建設委員自座列拜)
 一、工匠長玉串を奉りて拝礼
 (工匠自座列拜)
 一、撤饌
 (備え付け神饌の内、瓶子、水器の蓋を閉じる)
 一、昇神の儀
 (斎主神籬に対し、昇神詞を奏す)
◆ 散餅・散銭
 (境内特設舞台にて、散餅・散銭を行う。奉仕者社殿建設常任委員、工匠長)



足場上で施工者から説明を受ける氏子

【建設工事現場見学会】
 平成二十一年三月二十二日、現場見学会を開催し、七十名の氏子が参加した。内部では、虹梁、柱、桁、貫、肘木、梁などの材質や、組み方等の説明が行われ、足場では曲がり材の加工や取り付けの難しさなど、神社建築ならではの技法の説明が行われ、湾曲した唐破風や大きく反り上がった軒先に参加者から感嘆の声が上がった。



講師から屋根の構造の説明を受ける神職

平成二十一年四月九日には、岡山県神社庁研修所(岡山市中区奥市)主催の、神社建築を主題とする「教養研修会」が岡山県神社庁及び当社にて施工者の(尙)井上社寺工業社長井上隆正氏を迎え開催され、県内外から四十五名の神職が参加した。
 現場では、実際の使用材や建築構造を間近で見学できるとあって、時間一杯まで屋根部材の名称や工法などの質問が相次いだ。